

地域と世界に開かれた教育重視の研究大学へ

研究にみる金沢大学の 「実践的教育」

特集

金大生の昼食事情に迫る! 「学食Webアンケート」

【連載】

キャンパス・タイムスリップ

① 城内キャンパス編

【特集】研究にみる金沢大学の「実践的教育」 P.2 / 金沢大学の地域貢献活動 P.12 / 学食Webアンケート P.14 / 卒業生インタビュー P.16 / サークル紹介 P.17 / 【連載】キャンパス・タイムスリップ P.18 / 金沢大学同窓会情報 P.20 / DATA NOTE P.21 / ニュース&トピックス P.22 / イベントカレンダー P.24

金沢大学広報誌「アカンサス」No.12 2008 SUMMER

発行日 2008年8月11日
発行 金沢大学広報課 〒920-1192 金沢市角間町 TEL:076-264-5024 koho@ad.kanazawa-u.ac.jp
広報誌「アカンサス」の配布を希望される同窓会には有償で増刊いたしますので、所要数をご連絡ください。

お気軽にご参加ください EVENT CALENDER イベントカレンダー

★マークはサークルのイベント ()は開催場所です。
*マークは金沢大学サテライト・プラザで開催します。
特に明記がないものは、金沢大学角間キャンパスで開催します。

8月
August

- 1 → 金沢大学トークセッション(名古屋・河合塾)
- 7~8 → オープンキャンパス
- 9 → 附属中学校同窓会60周年記念式典
記念企画・総会(金沢21世紀美術館)
大懇親会(ANAクラウンプラザホテル金沢)
- 13~15 → 夏季一斉休業
- 30 → ミニ講演「コトバの音声の諸相」*

9月
September

- 16~18 → イノベーション・ジャパン2008
(東京国際フォーラム)
- 26 → 9月期学位記授与式
- 27 → ミニ講演「石川、日本海そして東アジアの
環境と課題」*
- 27~11/8 → 北陸地域経済学講座(ITビジネスプラザ武蔵)
- 28 → がん研究所 県民公開セミナー
(石川県教育会館)

10月
October

- 10 → 60周年記念式典(附属中学校)
- 11~11/23 → 北陸三県芸術交歓祭(県内各所)★
- 15~11/16 → 資料館・附属図書館 特別展
「うけつがれた「モノ」たち—明治・大正・
昭和の掛図・模型—」
- 18 → ミニ講演「花はどこから来たのか?
—植物科学最大の謎」*
- 25~26 → 開校記念祭(附属高等学校)
- 30~31 → 文化祭(附属中学校)
- 下旬 → 全国宝生流学生能楽連盟 北陸支部大会
(石川県立音楽堂)★

11月
November

- 1 → ふれてサイエンス&てくてくテクノロジー
- 1 → ものづくり教室
- 1 → ミニ講演「月周回衛星『かくや』の旅
~衛星設計から探査までの道のり~」*
- 1~2 → 医学展

11月
November

- 1~3 → 金大祭
- 4 → 「いしかわ金沢学」秋コース
- 8 → 北陸4大学連携まちなかセミナー
「北陸発のふ・る・さ・と探訪」
「雪を科学する」
- 20~21 → 教育研究発表会(附属小学校)
- 29 → マンドリンクラブ定期演奏会(石川県文教会館)★

12月
December

- 初旬 → 「いしかわ金沢学」冬コース
- 6 → 琴尺八部 邦楽演奏会(石川県文教会館)★
- 20 → 竹糸会・医学部邦楽部 定期演奏会
(石川県文教会館)★
- 23 → 吹奏楽団 第21回定期演奏会(金沢歌劇座)★
- 下旬 → 軽音サークルY.F.A「お城のコンサート」
(金沢AZホール)★

金沢MOT塾

10/2より毎週木曜日開講「ニュービジネス創造論」
10/3より毎週金曜日開講「地域ビジネス論」

【お問合せ】角間南地区事務部学生課学務第二係 TEL:076-234-6831

公開講座

- 8/5,6
「高校生のための医学・発生物学への招待」
- 8/18~28
「心と体の健康」*
- 8/25,26
「聴覚障害児を指導する教員のための手話講座」
- 9/2~16
「薬局見学・体験ツアー」
- 9/6~27
「グローバル化と日本—経済、政治、社会、文化の各側面から考える—」
- 9/6~10/4
「実験で確かめる放射能と放射線」
- 9/6~10/4
「楽しい化学実験」
- 11/15~12/6
「実務に役立つコンクリートの品質管理技術」

【詳細情報】http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/kaiho_c/kouza.htm

金沢大学基金を 創設しました!

学生の修学や教育研究などを支援するため、
「金沢大学基金」を創設しました。
皆様のあたたかいご支援、ご協力をお待ちしています。

金沢大学基金事務局
TEL:076-264-5075 FAX:076-234-4021 E-mail:kikin@ad.kanazawa-u.ac.jp
<http://www.kanazawa-u.ac.jp/kikin/>

携帯サイトはこちら!



<http://daigaku-jc.jp/kanazawa-u/>



(Acanthus 116~)

古代ギリシア・ローマに由来する植物で、和名を葉衝(ハアザミ)という。金沢大学校章のモチーフになっていることから、キャンパス内施設に名称が用いられるなど、長年にわたり学生や教職員に親しまれている。

(表紙写真)
自然科学系図書館前
(角間キャンパス)

自然科学系図書館前の広場に青々とした芝生が整備されました。奥は南福利食堂「フレボ」学生たちの憩いの場として賑わいを見せています。モデルは本誌P.19に登場するJ.M.C.の皆さんです。

(編集後記)

特集では、学生が行う研究活動に、彼ら自身の視点から迫りました。面白さや研究にかける情熱はもちろん、そこから生まれる教育効果や社会貢献まで幅広く見渡すことができました。また、800余名からの回答を集計した「学食Webアンケート」や、金沢大学の懐かしい姿を伝える新連載「キャンパス・タイムスリップ」など話題の幅も拡大。多くの方に学びの魅力を感じていただきたいと願っています。

特集

地域と世界に開かれた教育重視の研究大学へ

「研究にみる金沢大学の 実践的教育」



本学が「金沢大学憲章」として掲げる「地域と世界に開かれた教育重視の研究大学」。その「教育重視の研究大学」における目的のひとつが、教育研究活動を通じて、学生一人ひとりを人間性豊かな人材へと育てていくことです。今号では、現代社会のさまざまな課題に対して、世界中をフィールドに取り組む学生たちが登場。貴重な体験をとおして実施される金沢大学の「実践的教育」を紹介します。

実践的教育の充実へ

私は昨年度まで、法学部と法務研究科(法科大学院)で学生教育に携わってきました。法学部では、ゼミの受講生は12名までに制限されており、アットホームな雰囲気の中で学生一人ひとりの意見をじっくりと聞くことができました。授業以外にも学生と個別に面談する時間を設け、勉学や進学についての相談を受けるなど、彼らの生の声に触れる機会を大切にしてきました。

その経験から思うのは、勉学であれ、研究であれ、途に迷った学生に対しては、十分に時間を割いて声を聞き、適切な方向に導く必要があること、また、意欲をもった学生に対しては、さまざまな能力を育て躍進させるような環境を、教職員が連携してつくるのが肝要だということです。

本学の強みは、文・理・医薬系の研究者が集う「総合大学」であること。研究者は分野の壁

を越えた組織的な研究を行い、国内はもちろん、広く海外においても、高度化・複雑化した諸問題に挑んでいます。また、研究者は同時に教育者でもあります。学生は、最先端の研究を推進する研究者の姿を間近に見ることで、社会のニーズを汲み取り、課題を解決するための知識や技術を身につけることができます。

4月にスタートした「3学域・16学類」は、こうした研究者と学生との関わりをより強化し、現代社会が求める人材を育むための教育体系であり、「社会のための大学」「学生のための大学」の構築をめざしたものです。経過選択制や主専攻・副専攻制など、学生が自らのキャリア形成に向けて主体的に学ぶ場が用意されています。

教育の質を向上させるための新しい取り組みもすでに始まっています。今年4月、全学のFD※委員会が立ち上がり、成績評



金沢大学 教育担当理事

樫見 由美子

KASHIMI Yumiko

価基準の明確化や、授業内容・指導方法の改善に向けた教員研修会の実施、学生の意見を反映させた授業評価の実施などを展開することを考えています。
金沢大学の大学憲章には、「学生の個性と学ぶ権利を尊重し、自学自習を基本とする」「専門知識と課題探求能力、さらには国際感覚と倫理観を有する人間性豊かな人材を育成する」という教育方針が謳われています。この素晴らしい目標の達成へ向けて、学生への教育・支援のための環境を整備し、学生が安心して教育を受け、研究に臨める大学づくりを推進していくこと。それが私の使命だと思っています。

※FD Faculty Developmentの略称。教員の授業内容や教育方法などの改善・向上を目的とした組織的な取り組みの総称。



Contents

FILE 01 カンボジアの美しい自然環境のために

FILE 02 寄生虫感染症から日本を守る

FILE 03 「親になる立場」で考える子育て支援

FILE 04 通学利便性の向上へ100円バス導入の効果に迫る

FILE 05 まちづくりの現場を学ぶ地域づくり学生インターンシップ

FILE 06 科学のおもしろさを伝えるサイエンスラボ

「教員養成GP」効果的な教育実習を支援するWEB教育実習ノート

FILE01

カンボジアの美しい自然環境のために

インドシナ半島に位置するカンボジア。20年に及んだ内戦の傷跡は徐々に消え、アンコール遺跡群には世界中から多くの観光客が訪れるようになりました。しかし影では、急速な経済発展に伴う環境破壊が進んでいます。金沢大学では、美しい自然環境を守るための調査研究を推進しています。

アンコール遺跡で大気汚染を観測

大気環境工学研究室の正井晶さん(自然科学研究科・修士2年)は、2006年、大気汚染の調査のために初めてカンボジアを訪れました。そこで目にしたのは、川が汚れ、ゴミがあふれ、土埃が舞う劣悪な環境。危機感を覚え、「カンボジアの美しい自然を守る、住民の生活を改善する、遺跡を保全する」という調査研究の意義を改めて強く感じました。



シェムリアップ市内のホテルでのインタビュー調査

大気汚染の原因を究明する

何が大気を汚染しているのか。車や発電機、煮炊きのために燃やされる薪、野焼きされるゴミから排出されるガスに着目した正井さんは、その量を推定するための調査を開始しました。カンボジアでは未登録車両が多いため、実際に走っている車の台数を把握しようと交通量調査を実施。また、ホテルを何十軒も回り、発電機の使用状況を調べました。「調査が進むにつれ、他にも



アンコール遺跡群内での気象観測



カンボジアでの調査研究について語る正井さん

調べなくてはいけないことが次々と見つかり、終わりがありません。カンボジア、特にアンコール遺跡内での大気汚染の詳細なデータは、世界中で本研究室だけが持つ貴重なもの。そのデータを基に、自然環境の保護、住民の生活環境改善と遺跡の保全のための対策案を提言しようとしています。「政策に反映させるには、調査に高い精度が求められます。その要求に応えていきたいです」。

大気汚染対策だけじゃない！カンボジアを舞台とした金沢大学の世界的研究

古内正美教授や正井さんが担っている調査研究は、カンボジアの大気環境、水環境、森林環境、河川・地盤環境の4分野で調査研究を行うERDAC計画の一環。その中心に立つのが、環日本海域環境研究センターの塚脇真二准教授です。

カンボジア最大の財産 トンレサップ湖

塚脇先生は、1992年から東南アジア最大の湖・トンレサップ湖を調査研究の対象としてきました。カンボジアの人々は、湖から食物(魚)を獲り、農業用水を得ています。また、大きな湖が気温調節の役割を果たすことで、温暖な気候が保たれています。このことから先生は、「トンレサップ湖はアンコール遺跡群を凌ぐカンボジア最大の財産であり、この湖なしにカンボジアの恒久的な安定はありえない」と考えているのです。

先生は、湖底に長い年月をかけて積もった泥を採集し、それを地質学的に調べることで湖の誕生から現在に至るまでの歴史を復元。それにより、「現在のトンレサップ湖は季節による大きな変化はあるものの、自然の絶妙なバランスの上に安定した水域として存在している」ということを明らかにしました。

トンレサップ湖の研究体制を確立 ―EMS B計画

トンレサップ湖の豊かな恵みを守るため、湖の自然環境を詳細に記録し、その変化を定期的に観測する必要がある。塚脇先生のそんな思いから2003年に始まったのが「トンレサップEMS B計画」。湖底地質、水文、植生動態、水界動物の4分野における、日本・カンボジア合同の総合学術調査です。

この計画に、自然環境保全を推進するユネスコが賛同。その支援を受け、翌年、日本・カンボジア両国の若手研究者8名から成るチーム「U32」が設立されました。これにより、長期的な観測体制が確立。季節による変化が著しく、増水期は減水期に比べ面積が5倍、水位が8m上昇する湖の観測への対応が可能となりました。彼らの活発な活動は高い評価を集めており、20年後・30年後における研究チームの主力となることが期待されています。



国際貢献

カンボジア

環境



指導教員が語る「実践的教育」のポイント

理工学域

古内 正美 教授 FURUUCHI Masami

学生は、知識を身につけることも大切ですが、人とのつながりを作ることも重要。私の研究室では、学域・学類を越えた研究室や、言葉や文化の異なる人々と交流する機会を用意しています。その中から、将来の糧となるような人とのつながりをもつてもらえたらと思います。

海外での調査は、実験室とは違い、いつ何が起るのか分かりません。そんな中、学生同士で助け合いながら問題を解決して



プロフィール

専門は大気汚染、環境保全。長年、タイで大気汚染の調査を行っている。2005年からはカンボジアでも調査を開始した。

□金沢大学大気環境工学研究室
http://webserv.ce.t.kanazawa-u.ac.jp/mfuru/

カンボジアの将来のために ―ERDAC計画

トンレサップ湖での活動を通じて塚脇先生が抱いた懸念。それは、環境破壊を省みず、観光産業の発展や経済成長を追求するカンボジアの姿でした。そこで先生は、アンコール遺跡区域内の環境汚染や破壊の現状を正確に把握し、その改善策を考察、国に提言するERDAC計画を立案。金沢大学だけでなく、京都大学、東北大学、琵琶湖研究所、日本

大学、横浜国立大学、大阪電気通信大学などと協力して調査研究を続けています。そして現在、先生がめざしているのは、カンボジアでの人材育成と、技術移転によるカンボジア人自身の長期的な環境観測体制の構築。国際社会への貢献として、また責務として、金沢大学のような先進国の総合大学がその役割を担うべきだと先生は考えています。

環日本海域環境研究センター

塚脇 真二 准教授 TSUKAWAKI Shinji



プロフィール

専門は海洋地質学。15年以上にわたり、カンボジアで調査研究に従事。トンレサップ湖には、先生の名がついた新種の淡水魚「トンレサピア・ツカワキアイ」がいる。

□金沢大学環日本海域環境研究センター地質学研究室
http://mekong.ge.kanazawa-u.ac.jp/

寄生虫感染症から日本を守る

日本では、1970年代にほとんどの寄生虫が制圧され、寄生虫感染症の脅威は過去のものと思われています。しかし世界では、マラリアやエイズの流行にみられるように、感染症の問題は決して過去のものではありません。そして、地球温暖化やグローバル化により、日本もその脅威にさらされているのです。

減少する寄生虫の専門家

現在、日本では全国的に寄生虫の専門家が減少しています。国内の医学部を卒業した医師は、熱帯病の診断経験を積めず、明らかな寄生虫感染症を見落とすことがあります。人やモノが国境を越えて行き来する時代であるにも関わらず、国内に感染症が侵入してきた場合に、早期に検出・対応できる人材が不足しているのです。

フィールドワークで実践力を養う

本学の「寄生虫感染症制御学研究室」は、国内に残る数少ない寄生虫学の研究機関の一つ。研究室では、検査・治療のための基礎研究に加えて、2004年からインドネシアでのフィールドワークも行っています。

動物の糞便を拾い集める

田中身利さん(医学系研究科・修士2年)は、2007年にインドネシア・スンバ島でのフィールドワークに参加。寄生虫の感染率や、感染している子どもたちの発育状態を調べるとともに、感染経路を探索しました。

田中さんは、感染経路を特定するため、人間に身近な動物をターゲットに糞便を取集。マーケットで売られている豚や、道路にいる牛の糞便も拾いました。「子どもたちに笑わせましたが、不思議と恥ずかしさはなかったです。動物の糞便が身近にある環境を目の当たりにして、動物からヒトへの感染の可能性を探りたい一心でした」と振り返ります。



検体処理をする荒井さん(左)、田中さん(右)(スンバ島)



このフィールドワークには、検査技師の資格を持つ大学院生が参加。感染症に対する罹患率[※]の高い発展途上国で、日本では見られなくなった貴重な症例に触れ、実情に即した対策を実施します。実際に検査・診断・治療を経験することで、感染症対応の実践力を向上させることが目的です。

※罹患率
ある集団において、一定期間内に新たに生じた疫病患者の割合。

ジャングルの奥で夜通し検査

荒井朋子さん(医学系研究科・博士2年)は、2005年からフィールドワークに参加。ひどい船酔いに耐えてインドネシア・シベル島に渡ると、そこから小さなボートで川を上り、ジャングル奥地の村へ。「電気も水道もなく、お風呂の代わりに川で水浴びをしました。現地の人々の中に入り込んで生活することで、人々が何を食べ、どんな生活をしている

のだろう、寄生虫はどこから感染するのだろうと、新しい疑問が生まれました。調査では、住民たちの便を検査します。便を持参してもらったり、代わりに診療をしたところ、隣の村からも人が集まって長蛇の列に、荒井さんたちは朝から晩まで診療をし、夜を徹して検査。疲れ果て、顕微鏡の脇で寝てしまう学生もいました。

次世代のエキスパートを育成

日本での生活とはかけ離れた苛酷な環境のもと、調査研究を重ね、日々たくましくなっていく学生たち。その経験が、何ものにも代えがたい財産として日本に持ち帰られます。

この研究活動は、今年度より科学研究費補助金に採択され、4年間のプロジェクトとして新たなスタートを切りました。今後も多くの学生がフィールドワークに参加し、次世代のエキスパートが誕生していきます。



顕微鏡検査の指導(スンバ島)



上:シベル島での検体処理
中:川をのぼって山奥の村に移動(シベル島)
下:右から、田中さん、荒井さん、中央が所講師

寄生虫

地球温暖化

グローバル化

スンバ島の講習会



患者の家庭への訪問調査(スンバ島)

指導教員が語る「実践的教育」のポイント

医薬保健学域

所 正治 講師 TOKORO Masabaru

フィールドワークの目的は、検査能力の向上だけではありません。現地の感染症について研究し、その状況を改善するために医療協力を行うことが、もう一つの目的なのです。

と言っても、これは決して慈善事業で行っているわけではありません。発展途上国では多くの感染症が蔓延しており、その

危険性を下げなければ、将来必ず日本でもアウトブレイク[※]が起ころでしょう。

世界中で感染症に対処する体制を整備することが、グローバルな経済活動の基盤になり、わたしたちの健康を守ることにつながるのです。

※アウトブレイク
病気の感染が爆発的に広がること。



所講師(後列右)
共同研究者の研究室前にて(スンバ島)

プロフィール

専門は分子寄生虫学。原虫の代謝経路の解明をめざした研究に従事。自身も子どもが Dengue 熱に感染した際にインフルエンザと誤ってしまった苦い経験がある。

□金沢大学寄生虫感染症制御学研究室
<http://www.parasitology.jp/>



山奥の村(シベル島)



ジャングルの川沿いの動物(シベル島)



港での夕日(シベル島)

「親になる立場」で考える 子育て支援

少子化や核家族化の進行、ひとり親家庭の急増、地域とのつながりの希薄化。子育てを取り巻く環境が多岐の問題を抱えるなか、金沢大学では、学生たちによる子育て支援の調査研究が行われています。彼女たちはどのような課題を見出し、解決への道を探ったのでしょうか。

子育ての現場を キャンパスで縦断 子育て環境の 改善へ向けて

2006年、佐藤啓子さん（医学部保健学科4年）は、医学科・保健学科の学生・教員らとともに「いしかわ縦断子育て支援キャンパス」を結成。3月にわたり、石川県内6市町の行政、乳児・保育園、子育て支援センター、企業、商店街、多子家庭を訪問し、インタビュー調査を行いました。

ここで見てきたのは、子育て問題の複雑さ。親や家族など「支援を受ける側」に加え、企業や地域・行政など「支援する側」の問題が複雑に絡み合っているのです。

例えば行政の場合、各専門機関の連携が弱く、支援に関する情報が利用者に向く届いていないという事例が多く見られました。



保育園の調査では、子育てを園に依存するなど、親や家族との関係の難しさ、病気や障害を持った子どもを受け入れるための制度が不十分であることが分かりました。

県の子育て 支援策を検証

2007年、高田敦子さん、中野ちなみさん（保健学科卒業生、附属病院看護師）たちは、石川県が独自に推進する子育て支援策「マイ保育園制度」が地域の中で十分に機能しているかを調査し、より有効なものにするための方法を検討しました。

課題と解決策を 県に報告

登録者である家庭を調査すると、実際の利用は半数程度、その大半も一時保育だけということが判明。また、施設についての調査では、職員数や設備の不足に悩んでいる現状が分かりました。

- ① 高田さんたちはこうした問題への解決策として、
- ② 制度の利用状況を評価する
- ③ 市町が保育センターや子育て支援センターなどと情報を共有し、連携を強化する
- ④ 制度を実施する施設を財政面で保障する

研究が生んだ 意識の変化

これら2年間の研究に従事したことにより、学生の子育て意識に大きな変化が生まれ、子育てをより身近な問題として、考えるようになったのです。

キャンパスに参加した佐藤さんは、「多くの学生が、自分が親になることを現実として捉えていないように思います。学校で親教育を行う機会があってもいいのではないのでしょうか」と、意識改革の必要性を訴えます。

「マイ保育園制度」を検証した高田さんと中野さんは、研究をとおして、母親たちの生の声にふれました。「子育てはまだまだ先のことと思っていましたが、自分も親になるという現実を自覚するようになりました」。



「マイ保育園制度」を調査したメンバー



子育て現場でのインタビュー調査



木村先生の研究室で調査研究について振り返る

子育て
少子高齢化
男女共同参画

指導教員が語る「実践的教育」のポイント

医薬保健学域

木村 留美子教授 KIMURA Rumiko

私と学生が行う研究の目的は、「地域への還元」。それは、成果を地域に役立ててもらおうということだけでなく、研究をとおして学生たちが社会に目を向けるようになることでもあるのです。

学生は、一市民としての意識が弱いように感じます。しかし、子育てに関する研究に参加すると、自分が社会の一員としてどうあらねばならないかを考えるようになります。

また、現在の子育てに関する問題の一つに「子どもの特性を知らない親」というものがあります。子育ての

現場を経験することは、学生にとって親になるための準備にもなっているのです。



プロフィール

専門は小児保健学。白帆台保育園理事長、内灘町次世代育成支援行動計画策定委員長などを務め、地域の子育てを支援する活動を行う。

□白帆台保育園

<http://www.shirahodai.com/>

先生が運営する保育園。子育て支援センターや保健室を設け、保健師や看護師を配置し、障害児、病後児保育、マイ保育園制度など、多機能な子育て支援を行っている。



FILE05

まちづくりの現場を学ぶ 地域づくり学生 インターンシップ

自治体やNPOでの業務に取り組み、地域の活性化やまちづくりのための実践的能力を養う「地域づくり学生インターンシップ」。2005年から試行されており、昨年は、加賀市、羽咋市、七尾市で実施されました。

公務員として地方自治に携わることをめざす島山彩さん（法学部3年）。七尾市役所でインターンシップに従事した彼女は、「一本杉通りと小丸山公園が一体となったマップづくりを担当しました。」

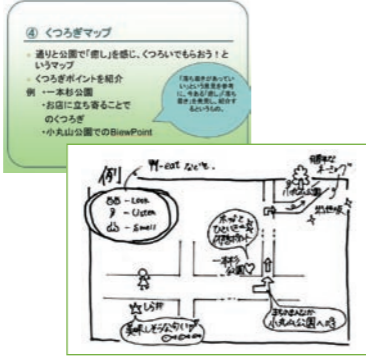
島山さんは、まちをよく知ろうと自分の足で歩き回り、一本杉通りの町会長をはじめとする地元住民や観光客から聞き取り調査を実施。また、インターンシップ受け入れの担当者である都市整備課・丸山準さんを通じて、さまざまな部署の方々や七尾市長とも懇話。住民・行政双方の意見をマップづくりに反映させました。

「学生の視点からユニークなマップを提案していただけた」と語る丸山さん。島山さんの派遣は、市役所の慣習や組織の壁に改めて気づく機会にもなりました。

11日間のインターンシップを経験した島山さんは、「行政



インターンシップの魅力を語る島山さん
七尾市長と懇談。疑問や意見を率直に述べ、有意義な時間となった



や地方自治についての授業を、実感を持って学べるようになり「楽しかった」と語ります。現場を体験したことにより、地方自治への興味はますます高揚。今年度は別の自治体へのインターンシップを計画中です。

FILE06

科学のおもしろさを伝える サイエンス・ラボ



上：近藤さん(左)、石間さん(右)
下：子どもたちに実験の説明をする

物理を専攻する学生を中心に、約40名のメンバーから成る「サイエンス・ラボ」。金沢子ども科学財団の「おもしろ実験教室」や、理工学域のイベント「ふれてサイエンス」などで、科学実験をおとして小中学生に理科の楽しさを伝える活動を行っています。

実験装置の製作には細心の注意を払い、何度も改良を重ねます。ネジの締め方がキツイなどの小さな原因でうまく動かないトラブルを防ぐことももちろん、小学生でも簡単に操作できる必要があるからです。

学年が上がり経験を重ねるにつれ、学生たちは組織の運営に携わるようになり「近藤史親さん(自然科学研究科・修士1年)は、外部との連絡や調整など、運営における重要な役割を担っています。石間崇宏さん(理学部4年)は、下級生の実験計画立案を支援。見た目の派手さだけでなく、「その実験を



実験装置を製作するメンバー

通して何を伝えたいのか」を考えるように促します。「サイエンス・ラボ」を立ち上げた理工学域・鎌田啓一教授のねらいは「これらの活動をとおして、学生の主体性を伸ばす」ということ。そのため、学生が問題を抱えたとしても、単純に解決策を示すようなことはしません。学生にとって実践的な学びとなるよう、「指導」ではなく「誘導」を心がけています。そんな先生の存在に、学生たちは安心感を得ながら、自ら学び、自ら考え、自ら実践する活動を進めています。

「修正や書き足しがしやしない」と評判のWEBノート。利用者の声をもとに進化を続け、さらに利便性の高い形へと発展していきま

効果的な教育実習を支援するWEB教育実習ノート
しかし従来から、実習生、実習校および大学の指導教員がこのノートに共有できないという物理的制約が問題となっていました。このノートの改善に取り組んでいた学校教育学類では、2006年の教員養成GP「WEB教育実習ノート」による自主学習の支援の採択により、Web上にノートを設置する試みがあれば、いつでもどこからでもノートにアクセスできる体制を構築しました。これによってノート共有の問題は一気に解消。実習内容へのスピーディーな指導や評価を行えるようになりました。さらに、連絡掲示板や、教材・学習指導案の見本、教科別の授業場面動画といったコンテンツを充実させ、実習生の自主学習を支援しています。

アンケートの集計に苦戦
森浩介さん、弥村考見さん、平井健二さん、張明さん(全員工学部4年)は2007年、学生が居住地を決める際に100円バスの影響があったのかを調べるため、金沢大学の1~4年生を対象としたアンケート調査を実施。100円バスの認知度は高く、「もっと便利になってほしい」と多くの学生から協力を得ました。

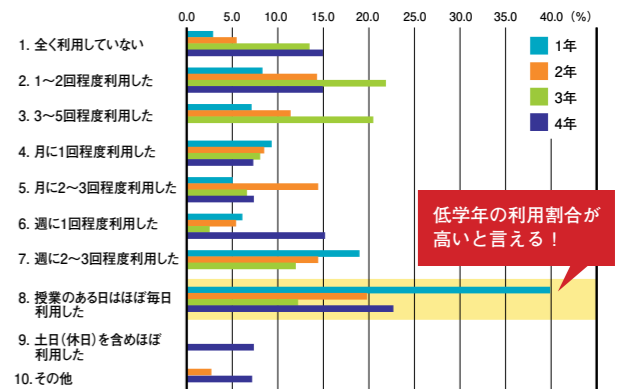
調査は順調でしたが、アンケートの集計では苦労の連続。例えば、居住地選択の理由に挙げた「生活の利便性」という回答。この表現ではその理由が「100円バスの運行エリア内だから」なのか、単に「バス停が近かったから」なのかを区別できませんでした。また、集計結果から傾向を導き出すための分類や、比較しやすいグラフの作成にも四苦八苦。大学院の先輩や指導教員の高山先生からアドバ

研究の実践による成長
苦労を重ねて導き出した結果。それは、「居住地選択の要因が100円バス」とは言い切れないものの、その傾向は年々高まっている」ということでした。また、100円バスが運行していない地区で学生数の増加が見られたため、この地域にバスを導入する必要があると考えました。

培った力は、学生の間だけに限らず、社会に出てからも森さんたちの糧となることでしょう。



100円バス利用状況(学期中の平日)



低学年の利用割合が高いと言える!

便利

リーズナブル

交通

FILE04

通学利便性の向上へ 100円バス 導入の効果に迫る

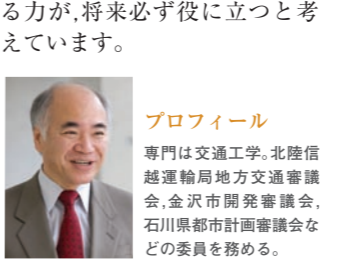
2006年4月から運行が始まった100円バス。学生の多くが居住する大学周辺のエリアと角間キャンパスを結んでいます。この100円バス導入による効果を分析し、運行エリア拡大の可能性を探る研究が、学生たちの手によって行われました。

アンケートの集計に苦戦

研究の実践による成長

※1 100円バス
金沢市の提案により、金沢大学とバス事業者のあいだで締結された「バストリガー協定」により運行。採算ラインを2005年度の利用実績から算出し、それを下回った場合は、運賃をもとに戻すことを含めた見直しを行う。

指導教員が語る「実践的教育」のポイント
理工学域
高山 純一 教授 TAKAYAMA Junichi



プロフィール
専門は交通工学。北陸信越運輸局地方交通審議会、金沢市開発審議会、石川県都市計画審議会などの委員を務める。

私は、学生に二つの力を養ってほしいという理由から、授業で学長研究奨励費への応募を課しています。一つは、提案書の作成能力。近年、交通計画や都市計画、まちづくりなどの事業者を選ぶ際に、入札ではなく、技術提案型審査をすることが増えてきました。奨励費の応募書類を作ることは、こうした提案書を書く練習になると考えたのです。もう一つは、計画的な研究の実践能力。社会に出ると、仕事を同時並行でいくつも進めなくてはなりません。学生たちも、限ら



奥 能登を舞台とした三つめのプロジェクトが「**大気観測・能登スーパーサイト**」だ。フロンティアサイエンス機構（FSO）*の岩坂泰信特任教授の研究グループが実施するこのプロジェクトは、三井物産環境基金の支援を受け今年4月にスタートした。

黄砂が偏西風によって大陸から日本に運ばれることはよく知られるが、黄砂に付着した細菌や化学物質が環境に与える影響については未知な部分が多い。この研究プロジェクトでは、中国、韓国を含めた国内外の研究機関とも連携し、黄砂が環境や人体に及ぼす影響、また、日本海域の大気の特徴について探る。さらに、拠点

となる奥能登の観測施設を世界の黄砂研究者に開放する「**能登スーパーサイト**」としての整備も同時に進める。

日本海に突き出た能登半島の地形は、大陸から飛来する黄砂の採取に適している。この地理的メリットに加え、奥能登にある能登大気環境観測施設（輪島市）、環日本海環境研究センター（臨海実験施設）（能登町）と里山里海自然学校（珠洲市）の3施設を観測地として統合的に運用することで、さまざまな観測に対応できる国際的な環境研究拠点を形成することをめざしている。

*フロンティアサイエンス機構（FSO）
特色ある重点研究プログラムを世界的な研究へと昇化・育成することをめざした研究機構

奥能登の3地点で大気観測 知られざる黄砂の謎に迫る



里山里海自然学校からの風景（海側）

里 山里海自然学校の設立当初に掲げられた「地域の活性化」や「教育研究拠点の形成」という目標に加え、今や「国際的な教育研究拠点形成」というさらなる大きな可能性も見えてきた。この発展を受けて、金沢大学は事業の将来を再構築。三つの事業を一つのチームプロジェクトとして組織する「**能登オペレーティング・ユニット構想**」（以下、能登ユニット）が提案されている。一つのチームとして組織的に運営を行うことで、さまざまな相乗効果を得られることが期待されている。

さらに、能登ユニットのスタートをひかえ、この構想を加速する追い風も吹いている。

2008年3月、国際保護鳥「トキ」の分散飼育の候補地の一つに石川県が検討対象に入った。この分散飼育が実現すれば、次は自然復帰への検討も始まることだろう。石川県と金沢大学では「その時」を見据え

て、能登にトキを呼び戻すための生態環境調査などを行う研究プロジェクトを立ち上げることになった。

同年4月には国連大学高等研究所横浜市の「いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット」が金沢市に設立された。能登ユニットにも関連する「SATOYAMA」をテーマに研究を進めることから、同研究所との連携は事業の進展に拍車をかける。2010年10月には生物多様性条約第10回締約国会議が名古屋で開催された。その関連会議を金沢に、エクスカーション（視察）を能登に誘致する活動も始まっている。

かつての能登半島は北前船の寄港地として栄え、人・もの・文化の交流地であった。さらに遡れば、大陸との交易にお

能登オペレーティングユニット構想

- 生物多様性調査・保全 / 環境教育
能登半島 里山里海自然学校
- 環境配慮型の農業人材の育成
「能登里山マイスター」養成プログラム
- 黄砂研究 / 国際研究ネットワーク形成
大気観測・能登スーパーサイト
- トキやコウノトリの生態環境調査
自然との共生による地域づくりプロジェクト

今年度スタート

国際的な教育研究交流拠点に 能登活性化へ高まる期待

2006年10月、金沢大学は、三井物産環境基金の支援を受け、石川県珠洲市に**里山里海自然学校**を設立した。その2年前、珠洲市で開催したタウン・ミーティングをきっかけに地域から挙がっていた「奥能登に高等教育機関の設置を」「奥能登の研究をとおして地域の活性化を」という要望を実現したのだ。

プロジェクトの柱は、奥能登の生物多様性などの自然環境調査を中心とする「研究」と、地域住民らと取り組む里山里海の「保全活動」、自然体験活動や講義を通じた「環境教育」の三つから構成されている。拠点となる建物は、廃校となっていた小泊小学校校舎を珠洲市から



里山里海自然学校の拠点となる旧・小泊小学校校舎

無償で借り受けたもので、ここに金沢大学からの常駐研究員（ポストドク）を配置した。創設以来、地元の人々とのネットワークづくり、信頼関係の構築を重視し、住民参加型の調査研究や里山の保全活動に取り組んできた。この地道な活動の成果が、その後の展開の基盤となっている。

廃校の小学校を再生 大学と地域の連携拠点に

金沢大学「能登半島 里山里海自然学校」（以下、里山里海自然学校）を皮切りに、奥能登の地域活性化と教育研究拠点の形成を目的として始まった三つのプロジェクト。その事業の充実には能登だけでなく、国際的な教育研究交流拠点形成の可能性をも示し始めた。その実現に向けて、三つのプロジェクトを統合する新たな組織が生まれようとしている。

「能登オペレーティング・ユニット構想」

地域の未来を担うリーダー 「能登里山マイスター」を育成

里 山里海自然学校の設立から1年後、2007年10月にスタートしたのが「**能登里山マイスター養成プログラム**」だ。これは、環境配慮型の農林水産業を学び、地域における未来のリーダーを育成する教育プログラム。里山里海自然学校に併設した「能登学舎」を拠点とし、文部科学省の科学技術振興調整費の採択を受けている。

2年間のカリキュラムをとおしてめざすのは、単なる技術の修得だけではない。生物多様性など自然環境に関する学術的な知識と、ブランド戦略やエコツーリズムへの展開などのビジネスセンスを備え、広い視野で農林水産業を実践できる

人材の育成である。そのため、きめ細かな指導ができる担任制をとり、講師陣には大学教員や地域の篤農家、NPOの職員、企業人など多彩な顔ぶれが並ぶ。支援体制は受講中だけにとどまらない。修了者は「里山マイスター」の称号を得て、共同研究や情報提供を通じた支援を受けられる。また、石川県の認定就農者になることで、支援資金（40歳未満3700万円限度・無利子）を得て自立する道も開ける。

現在、受講生は1期生と2期生を合わせて35名。自治体や地元企業の職員、県外からの移住者など多様だ。地域再生には、自然環境や文化など潜在する資源も必要ではあるが、それを



2期生開講式「能登里山マイスター」養成プログラム

活かす「人材」がより重要になる。5年のプロジェクト期間を通じ、地域資源を活かして活性化に貢献する人材60名以上の育成を想定している。



実習では知識と技術の両輪を学ぶ「能登里山マイスター」養成プログラム

● 角間キャンパス 大学会館3F
 ● 月～金曜 11時～13時30分

「喫茶」
 マニアも納得、金大の新しい味
 カレーシヨップ

専門店ならではの「ビーフカレー」は食堂のカレーよりマイルドな味わい。辛さを求める人は「赤いカレー」にチャレンジ。シチューのような「白いカレー」も人気です。季節によって5～6種のカレーが並び、ハンバーグやコロッケなどのトッピングも常時5～6種類。好みに合わせた組み合わせを楽しめます。テイクアウトもOK!

● 角間キャンパス 中福利施設2F
 ● 月～金曜 11時～15時

いつもと違うひと時を
 アカサカス・カフェ

調理は注文を受けてから。できたての料理をスタッフが席まで運んでくれるのも嬉しいですね。人気は、日替わりの井が楽がセット「どんぶり定食」。小さな趣がセットになったお得メニューです。時には、店員さんが考案したオリジナルメニューが登場することもある。角間キャンパスの四季の景色を楽しみながら、ゆったりとした食事を楽しんでください。

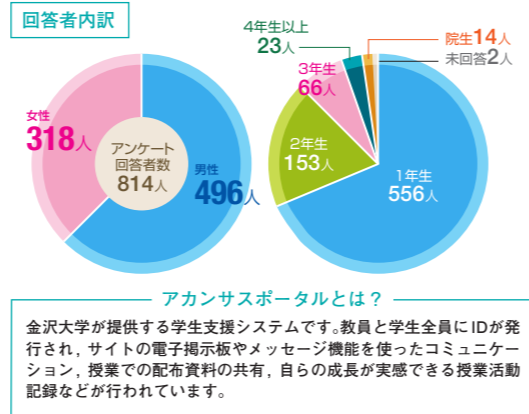


● 角間キャンパス
 自然科学本館2F
 ● 月～金曜 11時～14時30分
 (ラストオーダー14時)

眺め抜群の隠れ家的スポット
 すみれ亭

奥まった通路の先には、レストラン風の広々とした店内。開放感あふれる大きな窓からは、一面にキャンパス風景が広がります。一番人気は「日替わりランチ」。女性には「ふわふわ卵のオムライス」も好評です。いつもより奮発して「牛ロース和風ステーキ」を堪能する学生もいるとか。特別な日に、ちょっとセレブな時間を過ごしてみませんか?

角間キャンパスの雄大な自然が眼下に!



金大生の昼食事情に迫る! 「学食Webアンケート」

アカサカスポータルを利用して行うアンケート、今回のテーマは「学食」。毎日の食事に関わるテーマだけに多くの回答が寄せられました。人気のメニューからおまけの質問まで、ページいっぱい紹介していきます!
 [アンケート期間:2008年5月1日～12日]

金大生が選ぶこの一品

Q1 好きな学食メニューは?

1位 若鶏の唐揚げ (395票)

2位 カレーライス (281票)
 3位 ラーメン (276票)
 4位 サラダ (265票)
 5位 うどん (215票)

定番メニューのカレー&ラーメンに圧倒的な差をつけて、若鶏の唐揚げがトップの座に輝きました!外はサクサク、中はジューシー。この魅惑のハーモニーをぜひ味わってください。4位にはサラダがランクイン。唐揚げとセットでバランスの取れた食事はいかが?

今日もこれで決まり!

Q2 よく選んでしまうメニューは? ※2つまで 回答可

1位 カレーライス (129票)

2位 若鶏の唐揚げ (114票)
 3位 チキンカツ (84票)

4位 ラーメン (45票)
 4位 ミニサラダ (45票)

152ものメニューが挙げられました。カレーライスとラーメンは、一品でお腹いっぱいになる手軽さが人気の理由でしょうか。迷ったらカレー」とりあえずラーメン」という人も多いのでは?そんな中、ここでも若鶏の唐揚げが強さを見せつけました。

事情は人それぞれ:

Q3 メニューを選ぶ際に、重視することは? ※複数選択可

1位 値段 (565票)
 2位 選択時の直感・気分 (341票)
 3位 量 (321票)
 4位 栄養バランス (299票)
 5位 カロリー (117票)
 6位 彩り (25票)

学生にとって食費のやりくりは大きな問題。しかし、値段を気にしたメニュー選びばかりでは飽きてしまうことも。時には己の欲望に素直に従いましょう。3位は「量」。午後の授業のためにも、エネルギー補給は必須です。でも、食べ過ぎて眠くならないように注意!

みんなの舌が求めるもの
 Q4 こんなメニューが欲しい!

1位 デザート (55票)
 2位 パスタ (40票)
 3位 オムライス (24票)
 4位 フルーツ (19票)
 5位 炒飯 (13票)

デザートは「別腹」。スイーツの誘惑には勝てません。2位以下を見るとパスタやオムライス、炒飯など

大学会館食堂はいつも大賑わい!

【食堂店長に聞きました】
 大学会館食堂店長・カレーシヨップ店長 山田裕也さん

おまけ
 Q 目玉焼きには何をかけますか?

1位 しょうゆ (394票)
 2位 塩 (109票)
 3位 ソース (84票)
 4位 こしょう (69票)
 5位 マヨネーズ (31票)
 6位 ケチャップ (22票)

全国各地から学生が集まる金大で、首位の座に輝いたのは「しょうゆ」。2位の「塩」に大差をつけました。中には「黄身にはしょうゆ、白身には塩」というこだわり派も。7位以下は個性あふれるラインナップ。未体験の味付けにぜひ挑戦を!

- 塩こしょう
- そのまま(何もかけない)
- 塩こしょうとしょうゆ
- ポン酢
- マヨネーズとしょうゆ
- こしょうとマヨネーズ
- チリソース
- ドレッシングなど

学生の皆さんには、しっかりとご飯を食べていただきたい。節約やダイエットのために食事を抜くのは体に良くないです。食堂では、食後のデザートのほか、地方のメニューが食べられるフェアも積極的にを行っています。食事だけでなく、授業の合間や放課後にも、友達やサークル仲間と気軽にご利用ください。スタッフ一同「いつでも同じ品質のサービス」を提供して、多くの方に満足していただけるように心がけています。

青空にいくつものボールが舞う



技が魅せる驚きの一瞬

JMC (ジャグリング・アンド・マジック・サークル)

ジャグリングとは、ボールや独楽などを巧みに操る大道芸のことだ。そして、トランプやコインなどで驚きの瞬間を魅せるマジック。多彩な技で非日常的な空間を演出するその世界に惹かれ、集まったサークル員は現在100名を超えている。

「人が驚いてくれたり、喜んでくれるところが面白いです」と話すのは、トランプマジックを得意とする青山恵理子さん(法学部2年)。青山さんは「マジックができる」と宴会で重宝します」と笑う。もちろん練習は必要だ。先輩の実演をそばで見て、指導を受けながら技を身につけていく。「日に日に上達していく自分を実感できます」と話す部長の東聡さん(教育学部2年)は、今では7個ものボールを操れる程の腕前だ。

いかにお客さんを驚かせ、楽しんでもらえるか。技を磨くと同時に、観客とコミュニケーションを取り、自然に拍手が沸くような流れを作ることも重要だという。そして、何よりも大事なものは、自分たちが

楽しむこと。JMCで体験した楽しさが、新しいことに挑戦する糧となり原動力となる。ジャグリングとマジックを心から楽しんでいるからこそ、彼らのパフォーマンスは観客の笑顔と呼ぶのだ。

JMCの活躍はここで!

- 晴天時は大学会館屋上(角間キャンパス)で、雨天時は人間社会第2講義棟で活動しています!
- 金大祭に向けて練習中!

<http://www.k-jmc.com/>



トランプマジックの実演

サークル紹介

語り継がれる粋な笑い 落語研究会

37年の歴史を持つ落語研究会。その伝統を途絶えさせまいと頑張っているのが魚水環さん(文学部3年)だ。芸名を粋笑亭志ん海魚という。

偶然耳にした落語家・三遊亭金馬のCD。その面白さが、魚水さんを落語の世界へと誘った。高校で落語研究会に入部し、大学と合わせて落語経験は6年になる。

魚水さんが演じるのは江戸から明治期に作られた「古典落語」。古い落語には言い回しや例えが判りにくい箇所もある。そこで、自己流のアレンジを加え、現代風に変化させ時事ネタを織り込む。

例えば「茶の湯」という、お茶のことを何も知らない主人と丁稚奉公が起こす騒動劇がある。この劇に登場する、泡だらけでひどい味の「椀の皮と青黄粉のお茶」をアレンジするとどうなるか。魚水さんは「生クリームとクロレラ粉末のお茶」という設定に変えて演じてみせたのだ。客席がどっと沸いた。「自分が真剣に考えたアレンジで笑ってもらえる、その瞬間が楽しみで続いています」。

より多くの人に喜んでもらえるように、落語の楽しさが伝わるように。研究会の先輩たちが収集した、落語家による音源を聞きながら修練を積み、アレンジを重ね寄席に臨む。粋な語り口は、そんな努力の賜物である。

落語研究会の活動に興味を持った方は!

- 落語研究会の部室へ気軽にお越しください。(角間キャンパス・サークル棟1階右奥)
- 金大祭にて寄席を開きます!



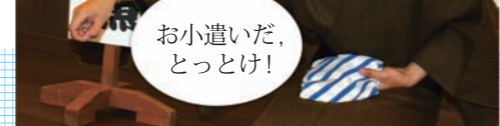
「粋笑亭」は同研究会に代々続く屋号

笑顔をお届けするサークル特集

自分とまわりを楽しませる

現在、金沢大学には、文化系サークルが39、体育系サークルが41あり、2,500名以上の学生が所属しています。

http://www.adm.kanazawa-u.ac.jp/ad_gakusei/student/club/



1964年、田中理事は、金沢大学理学部生物学科に入学するが、それは望んだ進路ではなかった。

「本当は文学部の史学科に入って、東洋史を学びたかったです。でも、そこを出てどんな仕事に就けるのか、18歳の自分には想像できませんでした。高校時代に、将来を見据えて進路を決めると言われても、なかなか難しいですよ。」

大阪出身の田中理事。第一志望は実家に近い大学だった。ずいぶん悩んだが、金沢というまちに惹かれ、そして、当時の城内キャンパスにも魅力を感じて金沢大学に入学。幸いにも級友に恵まれ、合唱団での活動に励み、そして恋もした。

研究者としての転機が訪れたのは4年生の卒業研究。アゲハチョウの色素を分析するために、田中理事は専門である生物に加え、化学も学ぶ必要に迫られた。

蝶の研究自体は生物学の領域だが、色素の分析で扱うのはアミノ酸から成る「ペプチド」という化合物。つまり化学の分野なのだ。

「何しろ異分野ですから、分からないことがたくさんありました。化学科の学生や先生に聞いたりして、もう必死で勉強しましたよ。」

その経験で得たものが、何でも必死で学べば理解できるという自信と、自分にとって新しい領域である化学への興味だった。



本学在学時代、仲間たちと。左は城内キャンパスの石川門で

大学院を修了し、サントリー株式会社に入社。いつしか専門分野は「ペプチド化学」になっていった。サントリーは酒造メーカー。そのため最初に携わったのは酒類の発酵に不可欠な酵母菌の研究だった。

しかしいつの間にか、酒とは関係のない「酵母菌の性ホルモン」にのめりこんでいく。酵母菌にも雌雄の区別があり、動物とは違った化合物からなる性ホルモンを放出する。誰も知らないその事実がとにかく「おもしろかった。当時の社長も、直接利益にならない研究をいっしょにおもしろがってくれた。「結局、その研究で特許が取

れたんです。酵母菌の性ホルモンは、人の男性ホルモンを抑制できると分かったため、育毛剤の開発につながりました」。

以降、田中理事はサントリーの医薬品分野を切り拓いていく。「おもしろい」ものを研究し、その中からさらに「おもしろい」ものを見つけて。そんな興味の連鎖の中で、植物の体内で働く生理活性物質「ポリフェノール」に行き着いた。

ポリフェノールは植物由来だが、人体でも有益に働く。その事実に着目した田中理事は、サントリーの原点ともいえる赤ワインを、ポリフェノールによる健康効果を前面に押し出して販売。一大ブームを巻き起こした。嗜好品ではなく、健康食品を追求する企業。サントリーの新しい方向性が生まれた瞬間だった。

田中隆治理事プロフィール
1946年生まれ。金沢大学理学部生物学科、神戸大学大学院理学研究科修士課程修了。本学在学中の4年間は合唱団に所属し、今でもできる。夫人とは1年生の時から知り合い、金沢には浅からぬ縁を感じている。

Graduate Interview 卒業生インタビュー

金沢大学財務担当理事
サントリー株式会社顧問

田中 隆治

TANAKA Takaharu

「a blue rose」。直訳すれば「青いバラ」だが、同時に「不可能」という意味も持つ。青の色素を持たないバラに、青い花は咲かせられないというわけだ。しかし、田中隆治理事は、誰もが不可能と考えたこの取り組みを、14年の歳月を懸けて成功に導く。その継続を支えたものは何だったのか。研究にかける情熱を大学時代の思い出とともに伺った。

「おもしろい」ものとの出会い

青いバラ。その青の色素もポリフェノールだ。医薬品の研究をとおして、田中理事はポリフェノールに対するノウハウを蓄積しており、「バラを青くすることぐらい簡単」と考えて研究に取り掛かった。

しかし、4年目でカーネーションを青くすることに成功するも、青いバラ誕生にはそこからさらに10年の歳月を必要とした。

その研究の日々を振り返り、田中理事は言う。

「人生を決めるのは、その時々での選択ではありません。たとえ選択がベストでなくても、継続することで様々な転機が訪れます。ですから、今自分が打ち込んでいることから「おもしろい」を見つけて、継続することが何より大切なことです」。

史学を志した学生は、金沢大学で生物学を学び、化学を修めた。そして見つけた「おもしろい」が、14年の継続を支え、「不可能」を「可能」に変えたのだ。

「不可能を可能にした」継続

新連載スタート！ キャンパス・タイムスリップ。

① 城内キャンパス編

1949年5月31日の開学以来、金沢大学で多くの学生が学び、語らい、青春のときを過ごしてきました。キャンパスに刻まれた懐かしい日々を、当時の写真とともに振り返る「キャンパス・タイムスリップ」。大学設置から現在までを駆け抜ける時間旅行にお誘いします。

お城の中の大学

現在は金沢市角間町にキャンパスの大部分を構える金沢大学ですが、開校時のメインキャンパスは金沢城跡にありました。ドイツのハイデルベルク大学とともに、「世界に二つしかない」お城の中の大学」として、全国的に知られていました。
どうしてお城の中に大学ができたのでしょうか。実は、GHQ石川軍政隊の指導によるものであったのです。占領政策の一環として教育制度改革が推し進められていたこと、明治の頃から金沢での新大学設置を望む世論があったことを背景に、金沢城跡にあった旧陸軍施設を利用しての大学設置が決定しました。

教育宝くじ

新たに大学を設置するにあたり、用地や校舎の整備には莫大な費用が必要でした。しかし、終戦間もない当時は国も地方も財政難。そのため、「教育宝くじ」を発売して、その売り上げを充当したそうです。

あの頃コラム 01



宝くじ発売を知らせる新聞広告
(上・1948年、下・1949年)



第一回教育宝くじ (1948年)

城内整備計画による近代化

1953年、金沢市弥生町にあった教育学部が城内へ移転。1957年には、仙石町にあった理学部の移転計画が持ち上がり、これを受け、1962年に「金沢大学城内整備計画」がスタート。理学部が城内へ移転するとともに、老朽化が目立っていた木造校舎は次々と鉄筋コンクリートの校舎に建て替えられました。同整備計画は、1966年の大学本部の完成をもって終了。城内は近代的キャンパスに一変しました。

入学から2年生の秋まで、城内キャンパスの教養部で授業を受けました。今は廃止された路面電車に乗って通ったのですが、お城の門をくぐって「登城」するのは気分がよいものでしたよ。
教養部では、医学部や理学部の学生と席を並べて講義を受けました。学部を超えた友人をつくる機会になりましたね。卒業後も続く交流が生まれるなど、人生において有意義な時期だったと言えらると思います。
授業の合間には友人たちと柿木島の喫茶店によく出かけました。まちに近いキャンパスということも魅力のひとつでしたね。



城内キャンパスの 思い出

金沢大学学長特別補佐
金沢大学名誉教授
辻彰さん

金沢市出身 薬学部卒
在学期間:1962~1966

城内キャンパスの 思い出

金沢市都市政策局
歴史遺産保存部長
岡田 宜之さん

金沢市出身 法文学部卒
在学期間:1973~1978



と、おして城内キャンパスで過ごしました。お城にある大学として、特に県外からの入学生に好評でしたね。学生の3〜4割くらいは北陸以外の出身だったような印象があります。

城内は、本丸、二の丸、新丸など段差があり、起伏に富んでいます。それが好きでしたね。校舎の周りには木々がうっそうと茂り、夜になると怖いくらいでした。

城内キャンパスがなくなったことは残念ですが、公園として市民に開放され、より多くの人に金沢の歴史を体感してもらえようになったことは素晴らしいと思います。



新設3学部の看板設置

あの頃コラム 02

38豪雪

1963年、いわゆる「38豪雪」が金沢を襲いました。城内の各建物も雪に埋もれ、教員・学生が協力して除雪にあたりました。建て替え前の古い校舎も残っていましたが、無事に豪雪を耐え抜きました。



教育学部校舎での雪下ろし (1963年)

文・法・経済学部の誕生

1963年、学部への進級前に一般教養科目の授業を行う「教養部」に専任教官制を導入されました。その結果、各学部における講義の専門性が高まるようになり、やがて1971年の大学院法学研究科、翌年の同文学研究科設立につながります。これが追い風となつて法文学部の分離改組の動きが活発化。1980年、文・法・経済の3学部が誕生しました。金沢大学は、総合大学として一層の飛躍を遂げたのです。

キャンパス総合移転

他キャンパスからの学部移転や新学部創設により、城内キャンパスは手狭になっていました。しかし、歴史的・文化的に価値のある城内に新たな建築物を建てるのが難しかったことから、1979年、金沢大学の総合移転が発表され、その移転先に角間地区が選ばれました。城内にあった学部は1989年から順次角間へと移転し、お城のキャンパスは姿を消したのです。

金沢城公園として整備され、市民や観光客が集う憩いの場となりました。かつてその地に金沢大学が在ったことを、石川門右手の「金沢大学跡地の碑」が静かに伝えています。



金沢大学跡地の碑

あの頃コラム 03

学生生活

現在の角間キャンパスには立派な鉄筋コンクリートのサークル棟がありますが、城内キャンパスにあったのは長屋風の木造建築でした。建物は違えど、多くの学生が今と同じようにサークル活動に励んでいました。



文化教育部室が並ぶ木造建物

学生の本分は勉強。毎日の授業や実験、実習に励み、もちろん試験も受けました。四高時代からの伝統と城内キャンパスの魅力で金沢大学の人気は高く、全国から集まった学生が互いに切磋琢磨しました。



試験に悩むのは今も昔も同じ?
(1977年卒業アルバム)

今では行われていませんが、かつては学内で運動会が開かれていました。また、大学祭での仮装行列、ダンスパーティーなども行われ、学生たちが親睦を深める機会となっていました。



第一回教育学部運動会(1958年)

卒業学部を超え、日本各地で交流が進む 金沢大学同窓会情報

Alumni association information

一生の友に巡り会い、生涯をかけてやりたいことを見つける、
人生において大きな意味を持つキャンパスライフ。
金沢大学ではその「大切な時間」にいつでも立ち返ることができる
多くの同窓会が活動しています。



窪田会長(左)と澤野事務局長(右)

新体制のもと、
横の繋がりを広げ大きな輪を
教育学部同窓会

教育学部の同窓生は今1万3000人以上。彼らと母校・金沢大学をつなぐ、新たな交流の第一歩が踏み出されました。

教育学部同窓会は、これまで附属小学校に本部を置き、同窓会名簿の発行など、事務的作業を担ってきました。「教員」を輩出する教育学部では、学校という職場に行けば、先輩や後輩と出会うことができます。また、定期的な異動によって多くの同窓生と交流が生まれるという事情もあり、これまで活発な同窓会活動は行われてきませんでした。

しかし、ゼロ免コース※の誕生など学生の選択肢が多様化。少子化などの社会現象も重なって、「教員」以外の進路を選択する学生が増えてきました。そのため、学校を職場としない同窓生にも交流の機会が必要



現在の教育学部校舎(人間社会第2講義棟)

ではないかという議論が生まれてきたのです。

2008年2月24日、教育学部同窓会は動きました。金沢大学サテライト・プラザで行われた代議員会において、本部を同窓会連絡協議会事務局に移し、大学の連携を図ること、組織活性化を図ることが確認され、新役員が選出されました。

新たに会長に選ばれたのは1963年に教育学部を卒業し、現在、金沢教育振興会会長の窪田長世さん。事務局長には附属小学校の副校長を務めた澤野等さんが就任しました。

「教員は、縦のつながりが強い職業なんです」と
そう語る窪田さんは今後、職場の先輩や後輩という縦のラインに加え、研究室単位の同窓会や卒業年度を同じくする同窓会などで、横の繋がりを広げたいと考えています。

その活動が、教員以外の進路を選択した同窓生とも交流を持てる場をつくり出していく。同窓生1万3000人を繋ぐ大きな輪が、縦へ横へと広がっていくのです。



新役員の出選が行われた代議員会

※ゼロ免コース 教員免許状を取得しなくても卒業できるコースのこと。

Activity report 活動報告 2008 03~07

- 3/15 法経文同窓会全国総会で中村信一副学長が講演
【演題】「学長就任にあたって」
十全同窓会理事会を開催
- 3/22 金沢工業会卒業・修了記念行事を開催
石川四高記念文化交流館の開館記念式(石川県主催)に中村学長、四高同窓会メンバーが出席
- 4/26 金沢工業会卒業・修了記念行事を開催
式(石川県主催)に中村学長、四高同窓会メンバーが出席
- 5/12 金沢工業会理事会・評議会を開催
学長を囲む法・経・文・教育同窓生(事務職員)懇親会を開催
- 5/17 金沢工業会同窓会総会を開催
- 5/23 金沢工業会同窓会連絡協議会第5回幹事会を開催
- 5/26 「金大法経33回同窓会」卒業50周年植樹式を開催。同窓会メンバーがシタレザクラを植樹
- 7/5 6/23 金沢工業会全国総会を開催
十全同窓会総会を開催
- 9/4 「北の都会」月例会
10/3
11/4
12/5
同窓生が待っています!
どうぞ、ご参加ください!
○活動スケジュール

同窓会の人的ネットワークを活用し、有意義な人生を

[金沢大学同窓会]

- 法・経・文同窓会 TEL(076)264-1667 (同窓会事務局)
- 教育学部同窓会 TEL(076)264-6196 (同窓会連絡協議会事務局気付)
- 理学部同窓会連絡会 TEL(076)221-2061 (金沢子ども科学財団気付)
- 医学部十全同窓会 TEL(076)265-2131
- 医学部保健学科 つるま同窓会
- 薬学同窓会 TEL(076)265-2504
- 金沢工業会 TEL(076)234-4411
- 四高同窓会 TEL(076)264-0482
- 四高同窓会 TEL(076)262-5464 (石川四高記念文化交流館内)

[金沢大学同窓会連絡協議会]

総合大学として、長い歴史と伝統を誇る金沢大学は、多方面で活躍する数多くの卒業生を輩出しています。そのため、同窓会での出会いや再会は、質の高い人的ネットワークを構築するまたとない機会となっています。

金沢大学同窓会連絡協議会では、卒業生の連携強化を目標として、同窓会への加入促進や各同窓会報の発行支援、行事の協力などの活動を行っています。

【事務局】金沢大学総務部 TEL:076-264-6196 FAX:076-234-4014
〒920-1192 石川県金沢市角間町 E-mail:now@kanazawa-u.ac.jp

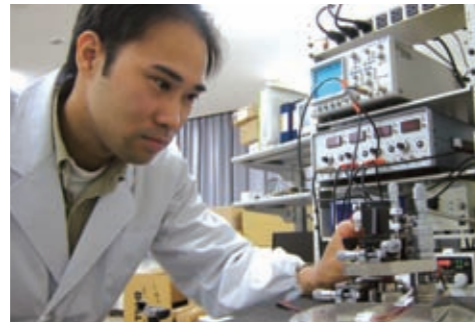
● 卒業生向けホームページ
<http://www.kanazawa-u.ac.jp/internal/graduate/index.html>

DATA NOTE

受賞

3月 フロンティアサイエンス機構・福岡剛士特任准教授が「平成19年度高木賞(社)未踏科学技術協会」を受賞

「液中原子間力顕微鏡による脂質二重層/生理溶液界面現象の分子分解能観察」が最優秀論文賞として表彰されました。



福岡剛士特任准教授

4月 医薬保健学域・土屋弘行准教授、富田勝郎教授が「平成20年度文部科学大臣表彰科学技術賞(開発部門)」を受賞

「カフェイン併用化学療法と患肢温存縮小手術の開発」の功績が認められたものです。



土屋弘行准教授(左)、富田勝郎教授(右)

有限会社金沢大学ティ・エル・オーが「平成20年度知財功労賞(特許庁長官表彰)」を受賞

KUTOLOは必要な特許を効率よく取得することに努めており、特許出願・特許取得実績に比べ、ライセンス契約件数と特許実施料収入の実績が顕著であることが評価されました。



研究・教育業績

4月 文部科学省「免許状更新プログラム開発発託事業」に採択

「金沢大学教員免許状更新講習試行」が採択され、教員免許更新制の試行がスタートしました。

5月 世界最古のトリメニア科種子化石を発見

理工学域・山田敏弘講師らが発見、「BMC Evolutionary Biology」電子版)に発表され、標本は国立科学博物館に収蔵されました。

文部科学省「科学技術振興調整費」に採択

「女性研究者支援モデル育成」プログラムに「やる気に応えます」金沢大学女性研究者支援」が採択されました。

平成20年度科学研究費補助金(新規採択)における採択件数ランキング(単位:件)

機関名	採択件数
1 東京大学	1,019
2 京都大学	875
3 大阪大学	712
4 東北大学	667
5 名古屋大学	530
6 九州大学	501
7 北海道大学	480
8 筑波大学	313
9 広島大学	307
10 理化学研究所	268
11 慶應義塾大学	259
12 神戸大学	254
13 岡山大学	241
14 千葉大学	237
15 東京工業大学	218
16 金沢大学	193
16 早稲田大学	193
18 熊本大学	178
19 新潟大学	166
20 東京医科歯科大学	157

(文部科学省研究振興局学術研究助成課)

認証評価

3月 大学機関別認証評価、法科大学院認証評価に適合

独立行政法人大学評価・学位授与機構が実施する大学機関別認証評価で11の基準すべてに、法科大学院認証評価で10の基準すべてに適合しているとの評価を受けました。



ISO14001

4月 技術支援センターが環境ISO14001の認証を取得

登録証授与式及び記念講演会を、6月13日に自然科学大講義棟レクチャーホールで開催しました。

公務員試験

平成20年度国家公務員採用1種試験合格者10名

科学研究費補助金

平成20年度科学研究費補助金新規採択件数ランキング16位

日本の学術振興のために優れた研究を支援することを目的に設けられた科学研究費補助金。平成20年度は、金沢大学から新規採択分193件、新規採択分および継続分を合わせ518件が採択されました。

NEWS & TOPICS 金大のいまがわかる

[ニュース&トピックス]

金沢大学のニュース&トピックスおよびイベント情報は、[金沢大学ホームページ](http://www.kanazawa-u.ac.jp/)でご覧いただけます。

<http://www.kanazawa-u.ac.jp/>

April 4月

4/1 3学域・16学類がスタート
「地域と世界に開かれた教育重視の研究大学」をめざし、新たな教育組織「3学域・16学類」がスタートしました。中村信一学長をはじめとする新体制が発足。新組織名称のプレイト除幕式が行われました。



4/1 イノベーション創成センターを設置
従来の共同研究センター、知的財産本部、インキュベーション施設及びベンチャー・ビジネス・ラボラトリーを統合し、設置されました。

4/7 平成20年度入学宣誓式を挙
学域1824名、別科34名、編入学103名、大学院818名が入学。厳粛な中にも、これからの大学生活を思い描く、希望に満ちた式となりました。



6/9 緊急医師確保対策に基づく医学類入学定員5人増を石川県と台意



July 7月

7/1 国民生活金融公庫と「産学連携の協力推進」に関する覚書」を締結
地域の産学連携を推進し、相互の発展ならびに地域中小企業および地域社会の発展に貢献することをめざします。

7/4 日本学術会議 中部地区学術学術講演会を開催
人間社会学域・野村眞理教授、理工学域・鈴木治彦特任教授が講演しました。

7/5 シンポジウム「ロースクールを鍛え直す」を開催

7/10 平成20年度学長研究奨励費交付式を挙

7/19 子どものこころの発達研究センターキックオフシンポジウムを開催

4/16 学生支援GPのキャンパス間無料シャトルバスが運行開始
学生の交流促進と活動の場を広げるため、角間キャンパスと宝町・鶴間キャンパス間において、無料シャトルバスの運行を開始されました。



4/20 金沢大学能登半島地震学術調査部会が輪島市で報告会を開催

4/21 アジア人財コンソーシアム総会を開催
参加企業から派遣留学生の技術や意欲の高さを評価する声がある一方、知的財産等についての課題も提示され、活発な意見交換が行われました。

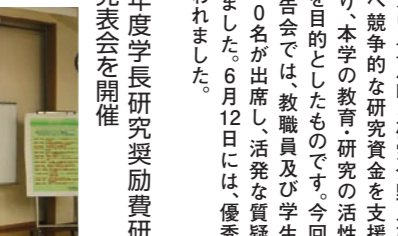
4/26 中村信一学長がサテライト・ブラザミニ講演で講演
「ボツリヌス菌物語」と題し、細菌学者の視点から、ボツリヌス菌の芽胞形成菌としての特性について説明しました。

May 5月

5/9 EU講演会を開催

5/13・17 「ふれあい看護体験」を実施
高校生や一般の親子が参加。スタッフフレーションや浴室の見学のほか、血圧測定や患者の手足を洗う看護業務を体験しました。

5/14~21 平成19年度重点研究経費研究結果報告会を開催
重点研究経費は、重点的な研究分野及び若手研究者等へ競争的な研究資金を支援することにより、本学の教育・研究の活性化を図ることを目的としたものです。今回の研究成果報告会では、教職員及び学生等、延べ約170名が出席し、活発な質疑応答が行われました。6月12日には、優秀者の表彰が行われました。



5/17 平成19年度学長研究奨励費研究結果発表会を開催

5/23 角間キャンパス屋外緑化2008を実施
キャンパスの自然環境復元と、安全で潤いのあるキャンパス形成をめざし、学長をはじめ、学生、教職員、一般市民など約460名が参加し、苗木約2000本を植えました。



5/23・26 薬用植物園の観察会を開催

5/30 4学類合同講義「医薬保健学基礎」を、学域1年生370名が受講

5/30 平成20年度金沢大学名誉教授称号記授与式を挙
4月1日付けで新たに名誉教授となつた方々へ称号記が授与されました。



June 6月

6/5 米国立バスターミナル大学副学長が学長を表敬



6/5 「ランチタイム・コンサート@金大音楽ホールVOL.2」を開催

6/7 「2008環境フォーラム in 金沢」を開催

6/9 北陸・北國銀行との包括的連携協力協定を締結
この協定によって、地域社会の更なる活性化への貢献をめざします。

6/16

学域学類発足記念式

4月にスタートした3学域・16学類を記念し、完成したばかりの自然科学大講義棟で、発足記念式が開催されました。当日は学内外から500名以上が参加しました。



林勇二郎前学長による記念講演



[上] 記念式典での中村学長のあいさつ
[左下] 金沢大学フィルハーモニー管弦四重奏で幕が開いた祝賀会
[右下] 観開きの後、澁谷亮治四高同窓会会長より乾杯の発声



式典では金沢大学合唱団が校歌を斉唱



祝賀会開催に先立ち、新役員の紹介が行われた